

## (4) 主体的な学びとするために、言語活動をどのように充実させるの？

ここでは、1時間の授業における言語活動を充実させるポイントや、よくある質問について、Q&Aの形でお伝えします。



### 言語活動の充実 Q&A ~学習意欲を高めることが大切です~

**Q** 「言語活動というとなぜか話し合いが思い浮かびますが、それ以外にもどんな言語活動が考えられますか。」

**A** 例えば算数科では、式や図、表を使って思考しノートに書くこと、理科では科学的な言葉や概念を使って思考すること、生活科ではお世話になった方へ手紙を書くこと、音楽では思いや意図をもって音楽表現することなど、各教科に様々な言語活動があります。  
(※言語活動の充実に関する指導事例集P11~16参照)

⇒さらに理解しておきたいことは言語活動自体が目的ではないということです。付けた力を明確にして、ふさわしい言語活動を設定し、ねらいを達成することが大切です。

**Q** 「みんな真面目でよく話を聞きますが、学ぶ喜びの見られる活発な授業になりません。」

**A** 学習課題が『子ども自身の問い』になることが大切です。

⇒教師の意図で課題設定し、望ましい答えが出されるとまとめてしまう授業をよく見かけます。提示の仕方を工夫し、子どもから生まれてくる疑問をもとに、子どもが本気になる課題を設定しましょう。子どもは多様な見方・考え方をもっていますので、よい課題であれば個人のこだわりのある考えなどがふつふつと湧いてくるものです。「よく気が付いたね。」と認めることで意欲が高まります。

**Q** 「話し合いをさせているのですが、意見を伝え合うだけで話し合いが深まりません。」

**A** 「話し合いを深める」ためには、仕掛けが大切です。

- ・発問のひと工夫（視点を明確にした発問）
- ・話し合いのツール（短冊黒板や付箋・カード等）の活用
- ・意見がにつながる工夫

《よくない例》

「それでは、意見が出ないので、隣の人と1分間話し合いましょう。」  
※計画性のない話し合いでは効果が上がりません。

⇒発問が、例えば「単に答えを求めていること」が多くあるのではないのでしょうか。考えを交流し合うように問い方を工夫しましょう。また主体的な話し合いを手助けするツールも効果的です。



《視点を明確にした発問例》「もし自分がりんご農家だったら、どの品種をどのくらい植えますか。」

《つながる工夫例》「わたしは～と考えますが〇〇さんはどうですか？（グループでの話型等）」

**Q** 「クラスのムードが硬くて、話し合いが盛り上がりません。」

**A** 普段の学級活動やショートホームルームでペアトークに慣れさせるなどして、安心して話せる雰囲気をつくっておくことが必要です。

- ・問題点の話し合いばかりでなく、楽しい話題を意図的に組む
- ・クラスの話し合いで決めたことは必ず実行し、話し合うことの重みやよさを実感させる



子どもたちの主体的な学びは、個々の学ぶ意欲をいかに高めるかを教師が考えることから始まります。そして、子ども同士が言語活動を通して学び合える学習を設定することが大切です。